



介護を家族や地域のパートナーシップで乗り切る

いま、核家族中心の少子高齢社会の中で、高齢者等の介護が大きな社会課題になっています。介護では、家族や地域、企業などでのいろいろな形の協力、支えあひが必要です。日夜、介護の現場で尽力しておられるケアマネージャーの方々に、介護の現状や、家族や地域で、どのようにして乗り切っていったらよいのかをお話いただきました。



■お話を伺った方々

順不同



ケアマネージャー
仲沢伸一さん

愛夢アシストケアプランセンター



ケアマネージャー
村越祐子さん

福生市社会福祉協議会
居宅介護支援事業所



ケアマネージャー
染谷恵子さん

NPO 法人 ケアサービスいずみ

介護保険とは

介護保険とは 40 歳以上の市民が保険に加入して、老後の不安要因である介護を、介護する人、介護される人の両方が安心して暮らせるよう社会全体で支えあうために作られた制度です。65 歳以上の方と、40 歳から 64 歳で特定疾病が原因となって、介護が必要と認定された方がサービスの対象です。

介護が必要になったら、まず、市役所介護福祉課に申請しましょう。訪問調査と医師の意見書をもとに、認定審査会を経て、認定された要介護度により、介護サービスが受けられます。ケアマネージャーはどのような介護サービスを受けるのが適切かを判断し、ケアプランを作成します。